ンゴクシケチシダ，*C. birii* の4種であり，そのうちホソバシケチシダ，ナンゴクシケチシダが東南アジアにも分布する。これら2種は最も広い分布域をもち変異も大きいが，対照的にそれらに近縁な *C. quadripinnatifida*, *C. birii* は狭い範囲にしか生育していない。西マレーシアに分布する *C. atroviridis* は，東南アジアではフィリピン，ニューギニアに分布するホソバシケチシダよりもヒマラヤの *C. quadripinnatifida* により近い。従ってホソバシケチシダは台湾—ルソン移住経路 Formosa-Luzon migratory track (van Steenis, C. G. G. J. 1934. On the origin of the Malaysian mountain flora Part 1, Bull. Jard. Bot. Sér. III, **13**: 133-262) を経由して分布域を拡大し，一方 *C. quadripinnatifida* と *C. atroviridis* はスマトラ経路 Sumatra track をたどり，しかも種分化を起したとみることができるだろう。ナンゴクシケチシダも同様にルソン経由植物といえるかもしれない。またナンゴクシケチシダに極めて近いシケチシダはそれよりも北方の暖帯—温帯に分布し，シケチシダよりもさらに派生的なイッポンワラビは冷温帯—亜寒帯にまで分布する。

シケチシダ属はその分布域の中でヒマラヤにおいて最も種数が多いものの，他地域と比較して特に分布の中心と呼ぶことはできない。しかし，ヒマラヤから東南アジアの高山にかけて原始的な3種が存在していることは，そこ（またはその一部としてのヒマラヤ）がこの属の起源した地域である可能性を示す。また，種分化を伴いながら東アジアの北方へと分布域を拡げていったと推定することができる。

Cornopteris Nakai in Bot. Mag. Tokyo **44**: 7 (1930)—M. Kato in Acta Phytotax. Geobot. **30**: 102 (1979).

Distribution: Himalaya, Burma, Thailand, Indo-China, Malay Peninsula, Sumatra, Java, Bali, Sulawesi, Papua New Guinea, Borneo, Philippines, China, Taiwan, Japan, Korea and Far East (U. S. S. R.). (M. Kato)

□井波一雄：**広島県植物図選 1** 200+12 pp. 1981. 博新館，広島市 ¥3,000. これは珍らしい本である。それは広島県という一県の植物を対象にした点であり，著者の井波氏が画筆をふるった点にある。広島県は北部は日本海系統のものを生じ，中南部は逆に襲速紀系のものが生えているという特異な地である。そこでとりわけ珍らしくまた注目を惹く種類100種をえらんで井波氏が一々実物について画いたものである。著書としてはなお次々と出して行くというし，著者は何回にも渡って現地を訪れていて飽くことを知らない。アオイカズラ，キシツツジ，ヤマトレンギョウなど有名なものの外，キレンゲショウマ，キビヒトリシズカ，アソヒカゲスミレの様な近年発見したものも載っている。一頁大に描かれ，花や果実も附記されており，適当な小文や，採集地についての地形図索引や金井索引番号もつけてある。ひきつづいて次巻の上梓を俟つこと，まことに楽しい。 (前川文夫)